



ビジターセンターからの おしらせ

秩父多摩甲斐国立公園指定 75th の「記念ナルゲンボトル」発売

秩父多摩甲斐国立公園の指定 75 周年を記念して、オリジナルデザインのナルゲンボトルを作りました。商品のデザインには「この国立公園がより良い形で引き継がれることを願い、私たち一人ひとりにどんなことができるか、このボトルを手にした方と一緒に考え、行動に繋がりたい」という、奥多摩ビジターセンターの想いが込められています。

※2025 年 7 月 10 日から 100 個限定 販売(価格:2800 円、500ml)



ちちたまかい ニュース

「国立公園乃印」を持って、国立公園を巡りませんか？

2025 年 2 月 1 日から始まった、全国 35 の国立公園を巡り、印を集める「国立公園乃印（環境省が行うキャンペーン）」。奥多摩ビジターセンターにも、北海道や沖縄などの印を押した方がやってきます。そして、各地の魅力を聞くのも楽しみです♪これまでの最多は 9 か所でした。

この取り組みは 2027 年 3 月 31 日まで行われます。奥多摩ビジターセンターでも台紙と秩父多摩甲斐国立公園の「印」を設置しています。台紙をもって、国立公園を巡ろう！



奥多摩ビジターセンター
〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川 171-1
TEL: 0428-83-2037
URL: <https://www.ces-net.jp/okutamavc/>
指定管理者: (株) 自然教育研究センター (略称 CES)

8 月 31 日 発行



X

Follow me!



Facebook



Instagram

はじめました！

第15号 奥多摩ビジターセンター通信

季刊

おくたん

2025
夏

秩父多摩甲斐国立公園の景色の未来は、
私たちのマナーとルールを守った行動が作ります



今号のラインナップ

- 特集 -

秩父多摩甲斐国立公園指定 75th
「1950-1970 年ごろの奥多摩の景色をプレイバック」

- ビジターセンターからのおしらせ -

秩父多摩甲斐国立公園指定 75th の
「記念ナルゲンボトル」発売

- ちちたまかいニュース -

「国立公園乃印」を持って、国立公園を巡りませんか？

雲取山避難小屋付近からの景色

おくたんでは、奥多摩を探求し、奥多摩を堪能していただくための情報をお届けします。

秩父多摩甲斐国立公園指定 75th

1950-1970 年ごろの 奥多摩の景色を プレイバック

奥多摩町も含まれる秩父多摩甲斐国立公園は、2025 年に指定 75 周年を迎えました。指定されたのは 1950 年。その時代の奥多摩は、どんな景色だったのでしょうか。

1950 年から 1970 年ごろの奥多摩の様子を調べました。今号では、その一部をご紹介します！

山の景色…

かつての奥多摩町は、山と川の恵みを活かした産業で栄えていました。

今でこそ、山の中ですれ違う人の多くは登山者ですが、昔は林業やワサビ農家の人と出会うことも多かったとか。

登山道を歩いていると、当時の産業を物語る「炭焼き跡」や「ワサビ田の跡」が残っている場所もあります。



三峰周辺の炭焼き跡



川苔山のワサビ田の跡

下の写真は、雲取山の同じ場所で撮影されたものです。かつては、登山道脇にヤナギランやシモツケソウなどの花が咲き誇っていました。雲取山から四方に伸びる尾根もササで覆われ、茂っていました。

1990 年代以降にニホンジカが急増し、草木を食べ、山の景色は大きく変わりました。かつてお花畑だった場所には、今は植生回復・保護のための柵（2018 年 写真内の白点線）が設置されています。



1950 年 - 1970 年ごろは
こんな時代だった



1954 年
「ゴジラ」公開



1958 年
「東京タワー」
竣工



1964 年
「東京オリンピック」
開催

観光名所…

1962 年から 1966 年まで、奥多摩湖を渡るロープウェイが運行していました。奥多摩湖を上空から見る景色は圧巻だったでしょう。1973 年には、奥多摩有料道路（今の奥多摩周遊道路）が開通したり、周辺にドライブインができました。

車や観光バスで訪れる観光客が増え、奥多摩町は観光の一大名所に。観光地を見物してまわる遊覧客が半数を占めていたそうです。1975 年の西多摩地域への来訪調査では、奥多摩町への来訪が最も多く、その数は約 200 万人。高尾山のある八王子市より賑わっていたようです。

多くのインフラ整備、そして来訪客の様子から、当時の活気づく奥多摩町の様子がうかがえます。



奥多摩湖の
ロープウェイ
イメージ

ゴミ…

その昔は、飲み物の入ったスチール缶は自然に還ると言われ、登山者は山に埋めることもあったとか。

観光客や登山者の増加に伴い、全国的にゴミ問題が深刻になりました。1972 年、尾瀬の「ゴミの持ち帰り運動」が各地に広がり、ゴミ箱が撤去されたり、「ゴミは持ち帰る」が当たり前になったと言われています。



三窪高原に残るゴミ箱

火の扱い…

山の中で、左の写真のような看板を見たことがありますか？

今では考えられませんが、1960 年頃、多い年では、年に 5 回も山火事が起きたことがありました。原因は、たばこや焚火の不始末など。

頻発する山火事を防ぐため、看板やポスターの設置、携帯灰皿の配布が行われ始めたそうです。



三頭山にある火気注意の看板

国立公園に指定された 1950 年は戦後まもないころでした。復興が進み、1960 年から 70 年ごろは、多くの人が訪れ、自然を消費する時代だったと言えるかもしれません。

時代は変わり、自然を利用するだけでなく保護していこうという現代。風景はもちろん、自然との付き合い方も変化し続けてきた 75 年間でした。

今当たり前のように目にするこの景色は、もしも私たちの自然との接し方が現代のように変わっていなければ、違った景色になっていたかもしれません。

国立公園は法律で守られていますが、この風景がこれからも見続けられるかは、この公園に訪れる一人一人のマナーとルールを守った行動にかかっています。